クリスチナ女王（1933）

QUEEN CHRISTINA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 97分
初公開日 1934/11
公開情報 劇場公開

【解説】

輝くばかりに美しいとはこの映画のガルボのこと。まさに“女王”に喩えられたその美貌が、１７世紀のスウェーデン女王を演じるのは当然の帰結と言えよう。ドイツ３０年戦争、デンマークとの交戦……、そんな多難な時代に６歳から在位したクリスチナの内的葛藤を表わして、その瞳の憂愁は神秘の深みを超越している。壮麗というより清楚な衣装も眼に涼しく、彼女の美をよりひき立てていた。この作品のすぐ後入水自殺するＪ・ギルバート（そのかん高い声をトーキーに不向きと言われた天下の美青年）を相手の悲恋物語の哀切も胸に染みる。恋破れたクリスチナは、君主である束縛を厭い、旧教に改宗したこともあって退位し、余生を芸術家や学者のパトロンとなってローマに送ったのだった。

【クレジット】

監督	ルーベン・マムーリアン	Rouben Mamoulian
製作	ウォルター・ウェンジャー	Walter Wanger
原作	サルカ・ヴィアテル	Salka Viertel
	マーガレット・Ｐ・レヴィノ	
脚本	Ｈ・Ｍ・ハーウッド	H.M. Harwood
	サルカ・ヴィアテル	Salka Viertel
撮影	ウィリアム・Ｈ・ダニエルズ	William H. Daniels
音楽	ハーバート・ストサート	Herbert Stothart
出演	グレタ・ガルボ	Greta Garbo
	ジョン・ギルバート	John Gilbert
	イアン・キース	Ian Keith
	ルイス・ストーン	Lewis Stone
	Ｃ・オーブリー・スミス	C. Aubrey Smith
	グスタフ・フォン・セイファーティッツ	Gustav Von Seyffertittz
	レジナルド・オーウェン	Reginald Owen
	エリザベス・ヤング	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.